

2023年7月6日

宛先： 辻恭子代理人 弁護士 谷 直樹 様
写し： 弁護士 岩永 隆之 様
和子成年後見人 弁護士 加藤 貴大 様
キミ卫成年後見人 司法書士 安部 高樹 様
濱崎 浩・朱美 様
辻 竜也 様
西山 円・敬子 様

発信人： 西山 美年子

件名： 夫 西山紀男の急変について

注：手書き原本から筆耕しました。紀男
追加・修正あり、2023/7/10-13

注： 義弟 辻俊雄より一方的に「今後の西山紀男とのおつきあいはしない。」と
絶縁状のようなものがファクスで送られてきました（2019/2/20）。
母が生きている間はおつきあいをするべきだ、との私 美年子の一存でお知らせいたしま
す。

2023/6/21 PM 2 時頃、血圧下がり、脈拍 40、一週間くらい前から息苦しさ、めまい
の症状がありました。

近所の池井氏に相談したら、直ぐに救急車を！ と、夫はタクシーで行きたい！
そんなのんびりしている状況ではない、と直ぐに救急車を呼んで緊急の当番病院へ運んで
もらえるよう手助けをしていただきました。

救命士の方が、病院の医師とモニターを見ながら連絡をとり、10分で着きました。
当番病院だったので、医師、スタッフ、揃って待ち構えてくださって、直ぐに処置されま
した。

処置室から大きな酸素ボンベが運び出され、その後、ベッドで入院室に運ばれました。

命を落とす寸前でした。

担当の医師から、病名は完全房室ブロック。このままでは死んでしまいます。

明日、緊急の手術をします。

私も血圧 180、動転していましたので、何もお尋ねすることができませんでした。

入院するとは思ってなかったので、売店にあるもので間に合わせました。

道後からだ、タクシーで 30 分（道路が空いてたら）港（三津）の近くにいます。

入院手続きや書類を揃えて、夜 8 時過ぎに病院を出ました。

2023/6/22 入院の翌日、ペースメーカーの植え込み手術をしました。

何があるか分からないので、私に手術室の前で待機しておくよう指示がありました。

2時間半、と言われていましたが、2時間で終わりました。
抗生剤の点滴3日間、調子良ければ来週の木曜に検査して、金曜日退院できます。

29日、傷口がジュークジュークして乾燥しないので再手術。
開いて洗って三重に縫い直した、と形成外科の医師の説明を受けました。
83歳だから免疫力落ちたのでしょうか。再び抗生剤の点滴を受けました。
木曜日の検査で異常なければ、今週金曜日(7月7日)、退院できそうです。
退院後は、家で心電図電話伝送装置をつけて病院から管理してもらいます。

在職中も、定年後も、一年一度の健康診断では、内科的にはどこも悪いところはなく、理想的な数値が並び、主治医がびっくりなさるくらいの健康診断の結果でした。
昨年春、転倒することが多くなり、身体障害者2級となりました。
市役所に私が申請に行った時、1~7級までありますから、2級は重いですよ、と説明がありました。
最近(今年1月から)公園を2本杖で150m⇒300m⇒500m、4月と5月には1,000mくらい ゆっくりゆっくり歩けるようになっていました。
これでは、飛行場や長崎駅内では歩けません。
車椅子の手配ができるか調べてみようとしているところでした。

最近の夫の体調が優れなかったことについて次に書きます。

1. 西山和子(義妹)5月1日 危篤の知らせが、道ノ尾病院 大坪医師から夫にありました。
夫 紀男は歩くことができないので、横浜の次男夫婦が代行します。
息子夫婦に迷惑をかけぬよう直ぐに葬儀の準備を始めました。
 - ・ 法名： 長延寺につけていただきました。
 - ・ 遺影の作成： 良い写真がありました。
 - ・ 平安社・筑紫氏との打ち合わせ： 筑紫氏は、夫の説明で(道ノ尾病院にいる和子)、「そうでしたか、和子さんと言う方がいらっしゃったのですか」と仰いました。
 - ・ 代行する次男に読んでもらう和子さんへの弔辞を作成しました。
 - ・ 僧侶へのお布施30万円をのし袋に入れて用意しました(筑紫氏は30万円が相場)。
2. 連休中の5月4日は、谷弁護士が対応してくださいました。キミ卫母が契約していた平安社との葬儀契約書は、安部成年後見人ではなく、辻恭子が管理していました。谷弁護士からの説明は下記のとおり、
「平安社の互助会契約は、西山キミ卫氏が契約者となっておりますが、加入の時点で指定利用者として 辻恭子、俊雄、朱美、竜也の4名が指定されていました。」

これを知り、夫紀男は、キミ卫母は自分の子供であり、障害者である 和子と絃二

の契約を何故してないのか？

和子と紘二を「見捨てた」のか？と、がっかり力を落しました。

2018/11/30 相続の話し合いの時、「キミ卫、和子、紘二の葬儀は直葬にする。」と夫が提案。

直葬とは？ インターネットから取得し、印刷したものを渡して説明しました。

恭子からは、何の返事也没有ませんでした。

これらの他にもキミ卫母に疑問を持っています。

山口節夫氏（曾祖父 利三の次男 傳一氏の孫）から墓地の立ち退きを要求されてからキミ卫母は 20 年以上も放っていたことです。

これは、曾祖父 利三の後始末です。

そのままにしておく、裁判で負けてしまう事例をインターネットで調べ、夫 紀男が横浜へ改装しました。 大事業でした。

墓地代金は次男の妻 敬子の父 有馬氏から 400 万円出ています。

安部成年後見人には、キミ卫母の資産からキミ卫生前に返却して欲しいと、何度も請求しております。

辻恭子は、「山口節夫氏から幾らかもらっている筈だ。」と言ってきました。

節夫氏に西山の墓を何十年も守っていただいて、ありがたくお詫びとお礼をするのはキミ卫の仕事です。

節夫氏とは子々孫々にしこりを残さないよう、美年子と敬子がお礼の手紙と、少しばかりの謝礼をさせていただきました。

墓より先に、辻俊雄との二世帯住宅建設に 3,500 万円を渡し、家族 5 人分の電気代、水道代などの生活費まで援助していました。

二世帯住宅建設と辻家族との同居の件は、キミ卫母も辻俊雄・恭子からも何の話も何の報告も無く、秘密裏に進められました。

西山所有の諫早城見町の土地と喜々津の土地を売って、身分不相応の大盤振る舞いでした。

辻俊雄は、世帯主として何故、長男の紀男に報告しなかったのか？

今でも、自分が西山の主のように紀男と美年子を蔑んでいる（2018/11/30）。

辻俊雄の卑劣な態度と言動は、以前に報告しています（2018/11/30 話し合いの記録参照）。

同日は、簡易保険の証書（辻恭子と西山紀男の分）2 通を開示したのみでした。

今は、安部成年後見人の元にあると思います。

和子・紘二の簡易保険の証書がないのを不思議に思います。

この点について谷弁護士を通じて恭子に尋ねてもらいました。

辻恭子代理人 谷弁護士からの返事は、「キミ卫氏が自分で決めたことであり、上記兩名につき契約をしていない理由を恭子氏は把握しておりません。」(2023年5月19日)。

◎ この二点の他にも、父 留太郎相続の時、和子と紘二を禁治産者にせず、諫早の土地を相続させました。

その賃料は和子と紘二のものなのに、キミ卫母は毎月 残高 0 円になるまで引出し、昭和 54 年 (1979 年) 父の逝去から 40 年以上、自分のお金として横領していました。

◎ キミ卫母は、和子と紘二を見捨てたのか?

紘二 47 年、和子 50 年以上も精神病院に長期入院させ、和子と紘二のお金を使って贅沢をし、浪費していました。

◎ キミ卫母は「和子と紘二を見捨てたのか?」と何度もつぶやき、「裏切られた」、「自分の思いを踏みにじられた」、と夫は苦しそうにつぶやきました。

傍で見ている私は、言葉が出ませんでした。あまりにも可哀そうで。

キミ卫母のうそつき

「二世帯住宅の建物は、俊雄とキミ卫の共同名義にした。」と紀男にも美年子にも嘘をつきました。

岩永弁護士の調査で、辻俊雄の名義になっていたことが判明しました。(2018 年 12 月)

血のつながった親子で！ 夫はここでも傷ついています。

紀男の母思いについて書きます。

紀男は、1 才になるかならないうちに祖父 庄三の家で育ちました。身の回りは義祖母がよくやってくれた、と感謝しています。粉ミルクで育ったそうです。

小三の頃、家族と同居を始めました。

幼い頃から父の暴力をよく見ていました。義祖母も父から蹴られて怪我をしたところを幼い紀男は見ていました。

暴力を受けている母、内職の編み物をしている母、苦労している母をしっかり見ていたのは、4 人兄弟のうち紀男だけだったでしょう。

西高生だった時は、部活もせず、友人と遊ぶこともせず、まっすぐ家に帰宅し、母の家事の手伝いをしていました。鉋を使って薪を割り、風呂を沸かすのが紀男の仕事でした。

大村にいた頃 (小 3~中 2)、鶏を飼っていました。卵を売るためです。鳥の世話は、紀男の役目でした。遊びからの帰りが遅いと、「耳を切り落とすぞ！」と父から脅されていました。成長期なのに、卵は食べさせてもらえなかったそうです。戦後は、皆どこの家も貧しかったのです。

母を楽にさせたい、との思いは兄弟の中で一番強かったと思います。
和子と紘二はひよろひよろしていて、何もできませんでした。

昭和 54 年（1979 年）父 留太郎逝去。

私共は、千葉市に住んでいました。相続の処理は、紀男がやりました。

会社を休んで、飛行機で長崎との間を往復。伊木力の役場と諫早市役所をタクシーで往復。
県庁に遺産分割協議書を提出するため 2 回往復。

県庁の担当者が、和子と紘二は禁治産者にしない方が良い、戸籍に記載され、子々孫々の結婚や就職に影響する、と教えてくれました。

キミエ母のところへ戻り、この件の承諾を得、母の印鑑をもらい、県庁へ戻って遺産分割協議書を提出することができた。紀男と恭子は財産放棄手続きをとりました。

諫早城見町（55 番地と 56 番地）の不動産は和子と紘二に、残りの不動産すべてをキミエの名義にしました。

預貯金、株式など、相当のものが留太郎から残されていたが、母は紀男に開示せず、一人で着服しました。

数年後、母は二世帯住宅を造り、娘 辻恭子家族と同居。孫の成長を傍で楽しみながら、幸せで自由な老後を豊かにお過ごしでした。

これで、母を幸せに、今までの苦勞から解放された、と紀男も満足していました。

106 歳を過ぎた現在、88 歳から老人ホームに入居し、贅沢に暮らしているらっしゃるのは、すべて紀男の親孝行です。

知人友人など、「お金がないので親を老人ホームに入れられない。」という方は沢山いらっしゃいます。

紀男が長崎には有望な企業がなく県外へ出たのは、両親の理解と承諾があったからです。近くに居なかったので、身の回りの細かいお世話は恭子がやってくれていることに感謝し、恭子が善意管理義務を果たしている、と信じていました。

* 夫からの追加： 西山 佐與吉、利三、庄三の先祖が苦勞して資産を拵げていった。

西山 留太郎・キミエの一代で西山の資産を散財してしまった。先祖の苦勞を思うと、やりきれない。

今回、キミエ母が「和子、紘二を見捨てていた。」ことがわかりました。

夫は精神的に強い人で、弱音を吐いたことがない人です。

大切にしていた母から「裏切られた。」と、心が壊れるような喪失感を味わった、と言っています。

母の裏切りが分かり、5 月に入って夫 紀男は体調が優れなく、佛壇（福岡に居た時買った団地用の小さな箱に円・敬子夫婦が贈ってくれた観世音菩薩を置いた）に向かって毎日、

般若心経を唱えていました。

この度の急変も祖父 庄三が救ってくださったのだ、と涙がこぼれました。

和子危篤の折、5月2日、辻恭子は「簡素な葬式にしてください。」と、申し出ました。それから、5月8日に豹変した。「IVHによる延命治療を自分が保証人になってやりたい。」と、担当の精神科医師に訴えた。

5月17日、オンライン会議の直前になって、和子が回復し、和子さんに助けられました。

オンライン会議は、夫は普段はやってないので、急なことで、Webカメラをネットで注文して取り寄せたり、PCの調整をしたり、大変でした。

横浜にいる次男に頼みましたが、会社の機密が外に漏れるのでZoomはやらない、と断られました。

この時も、夫は変調が出ていて会議の応答は辛かったです。

次男は、今後も一切対応しません。

タイムリーに、7月4日の日本経済新聞に厚労省の発表が掲載されました。

2022年、誤嚥性肺炎による死者56,068人。今後、死者数は増加傾向にある。

和子さんもこのリスクを抱えています。

食の見守りは大変な時間と労力がかかります。

恭子は、キミエ母を傍で見えてきたので、良く理解していることと思います。

介護従事者の人手不足に追い打ちをかけています。

また、辻恭子のIVH延命治療希望による合議のための会議が予想されます。

キミエ母のCVC延命治療は、辻恭子が長男である兄に何の相談もなく、自分が保証人になってやってしまいました。104歳でのCVCによる延命治療が必要だったのか、恭子の心が見えません。

106歳までの延命はできましたが、QOL（Quality of Life）は下がっています。

キミエ母95歳、ペースメーカー延命治療。103歳、ペースメーカー電池交換。等々、いつも紀男を無視、事後報告でした。

辻家に電話しても出ないし、私がでるとガチャンと切ったこともあり、緊急の時の連絡がとれません。 電話での話し合いができない兄弟は、普通はありません。

紀男の相続に関する理念は、西山家先祖代々からの遺産を子々孫々に継承させることです。

西山は墓碑から200年以上続いていることが分かりました。

系図は夫が作り、次男 円へ伝えています。

紀男が祖父 庄三から伝え聞いていることは、
西山 萬十 ⇒ 佐與吉 ⇒ 利三 ⇒ 庄三 ⇒ 留太郎 ⇒ 紀男 辺りのことです。
佐與吉（宮大工）が山から降りてきて、諫早・本明川沿い（輪内名）の竹藪を
開拓して住み着いた。その男子 利三が家を見て替えた、宮大工でした。
その家に、庄三、タツ、キミ卫、紀男（1才から小3まで）は住んでいました。

昭和32年（1957年）7月、歴史に残る諫早大水害がありました。私の中2
の時、教室で水害の話で騒いだのを覚えています。
588mmの大雨で本明川が氾濫し、630名の死者が出ました。西山の家も本明川
の前にありましたので、1階の天井まで1寸を残して浸水しました。
祖父 庄三と祖母 クラは、消防団員の助けを得て2階から屋根へ降り、本清寺
の境内に逃れ、流されなくて命拾いをしています。
お佛壇だけは、流されなくて無事に残っていました。

諫早水害のことは、諫早市役所に電話すると、65年たった現在でも、
どの職員の方も詳しく教えてください。

祖父 庄三は、正源寺の寺総代としてお寺の再建と復興を円滑に完成させました。
西山の家は、本明川の川幅を広げる時に、ジャッキで持ち上げて1m50cm奥に
移動させられたそうです。宮大工 利三の造ったしっかりした家（6寸角の柱）
だったので、流されなかったのです。勤めを終えた祖父は、静かに逝去しました。

夫紀男も西山の相続と言う仕事が残っているから救われたのでしょうか。
2004年の交通事故に遭った時と同じです。

以上、まとまりのない文になりましたが、高齢（80歳）と紀男の救急搬送入院の疲れに
免じ、お許し下さいますようお願いいたします。
2023年7月6日

西山 美年子

追加 紀男記始め、

7月7日、奇跡的に生還しました。
2019年から5年間に亘り、辻恭子と文書のやり取りをしています。
2020年からの谷弁護士を経由した辻恭子の文書には、「キミ卫母から後事を託されてい
た。」との文言が散見されます。
後事とは？ 何を、何時、どのように託されたのか、具体的な説明は無く、その場凌ぎ
の言い逃れのように見られます。（2018年11月30日、話し合いの席で遺書はない、と
恭子の返事でした。）

キミ卫母の葬儀については、昭和 55 年、留太郎父の初盆に行き、昭和 56 年の夏に帰省した折、美年子はキミ卫母からご自分の葬儀について依頼を受けました。キミ卫母は、互助会に入会していること、およびお金を用意していることを話されました。（現金が入った 3cm 厚くらいの封書を布団の間から取り出して、見せてくださいました。）

1999 年（平成 11 年）12 月、自動車（トヨタのクラウン）と高速艇に乗せてキミ卫母を松山にお連れして、1 週間ほど逗留されました。帰路は博多まで飛行機で送り、長崎行き的高速バスに乗せて帰ってもらいました。喪主を辻に頼むほど落ちぶれてはいなく、西山としての誇りと自覚を持っておられました。

今年 5 月 19 日、谷弁護士からの返信により、平安社との互助会契約および簡易保険契約は、「キミ卫が一人でやったことで、恭子は把握していない。」とのことでした。この件から、キミ卫母は、和子・紘二の後事を託していないことが証明されました。

水代・電気代を払わない、キミ卫葬儀の喪主論争、佛壇を横取りしたい、キミ卫の法名を院号に替えよ、紀男同意なしのキミ卫の CVC 延命治療、和子の IVH 延命治療申し入れ、和子・紘二名義の賃料の横領、キミ卫の部屋から持ち出した証書・預金通帳・権利書・互助会契約・土地の売買契約書、等々の隠蔽。横領・隠蔽は犯罪である、との意識が無い。西山の家を出て、辻に嫁に行った分際で西山家に介入し、次から次に騒ぎ立てている。西山に対する執着と欲望が強すぎる。

晩年に入った紀男は、ゆっくり出来ないで疲れ果てている。
恭子の本心は何なのか？ 何処にあるのか？ 何が言いたいのか？
電話でも良いから声を聴かせてくれ。

また、キミ卫の部屋から持ち出したものは西山のものであり、辻のものでは無い。
キミ卫が諫早の家から持ってきたものは西山の子孫に伝えたいから西山に戻してくれ。

紀男記終り、

- * 夫はペースメーカー植え込みのため、スマートフォン、電子レンジ、IH 調理台、等の電磁波を発する機器からは一定の距離を置くよう指導を受けています。（MRI は禁止）
- * 記録として、西山を繋ぐ西山華世、西山知志のために書き残しました。

私事ですが、（美年子）

兄・妹のトラブルほどつらいものはありません。悲しいことです。

2019 年以後、谷 弁護士、岩永 弁護士、加藤 弁護士、安部 司法書士、宛の文書原稿をみかん箱一杯になる程書いてきました。

長崎大学医学部精神科卒で大学病院に 20 年ほど勤務して、郷里松山で心療内科を開業なさった山田先生と出会いをいただきました。50 歳くらい。
杠葉病院、道ノ尾病院のことも詳しくご存じでした。

兄・妹のトラブルで心を病んでしまった詳しい経緯を話し、辻恭子や岩永弁護士宛に送った文書を何通か持っていきました。

私の病状は、一過性全健忘ではなく、てんかんのようだ。松山基幹病院・脳外科 中川医師に脳波をとってもらいなさい。

中川医師は、自分より詳しい てんかん専門（神経クリニック）の梅岡先生を紹介。脳波検査の結果、梅岡先生より てんかんの診断でした。

ストレスの蓄積と言われました。（原因）

ゾニサミドと言う副作用の強い薬で、てんかん発作は止りましたが、（インターネットで検索したところ、筋肉融解の副作用）背中が痛く、足がヨタヨタし、歩けなくなりました。直ぐに服用を止め、先生に抗議したところ、「ゴメンナサイ」と、モルモット扱いされていたことが分かりました。

神経クリニックを止め、国立愛媛大学附属病院・脳神経外科教授 國枝先生に診てもらっています。東温市志津川にあるので通院が大変です。

医師やナース達から「一人で来たの？」と言われていました。

意識を無くした時、歩道からふらふらと車道に出たりするので、発作時は自分は分からないので、怖い思いをしています。

人の運命とは分からないもの。80 歳を過ぎて、二人とも障害者になってしまいました。

美年子より義妹 辻恭子さんへ、

ロシア・ウクライナ戦争を始めに、中国・アメリカ間など世界は分断と不寛容に覆われていると言われていました。

小さな島国の日本の中の長崎。 小さな小さな西山の家でも同じく分断と不寛容になっています。

和解が無ければ、次世代の西山円と辻竜也に引き継がれることを一番心配しています。

以上、